

倶多楽の火山活動解説資料（令和元年5月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①）

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図2-③、図3）

GNSS連続観測では、2017年7月以降、日和山東-白老を結ぶ基線でわずかに伸びの変化がみられていましたが、2019年以降停滞しています。また、4月に実施したGNSS繰り返し観測では、笠山の局所的な変動と考えられる変化が観測されました。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

今回の火山活動解説資料（令和元年6月分）は令和元年7月8日に発表する予定です。



図1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（5月29日、414m山監視カメラによる）

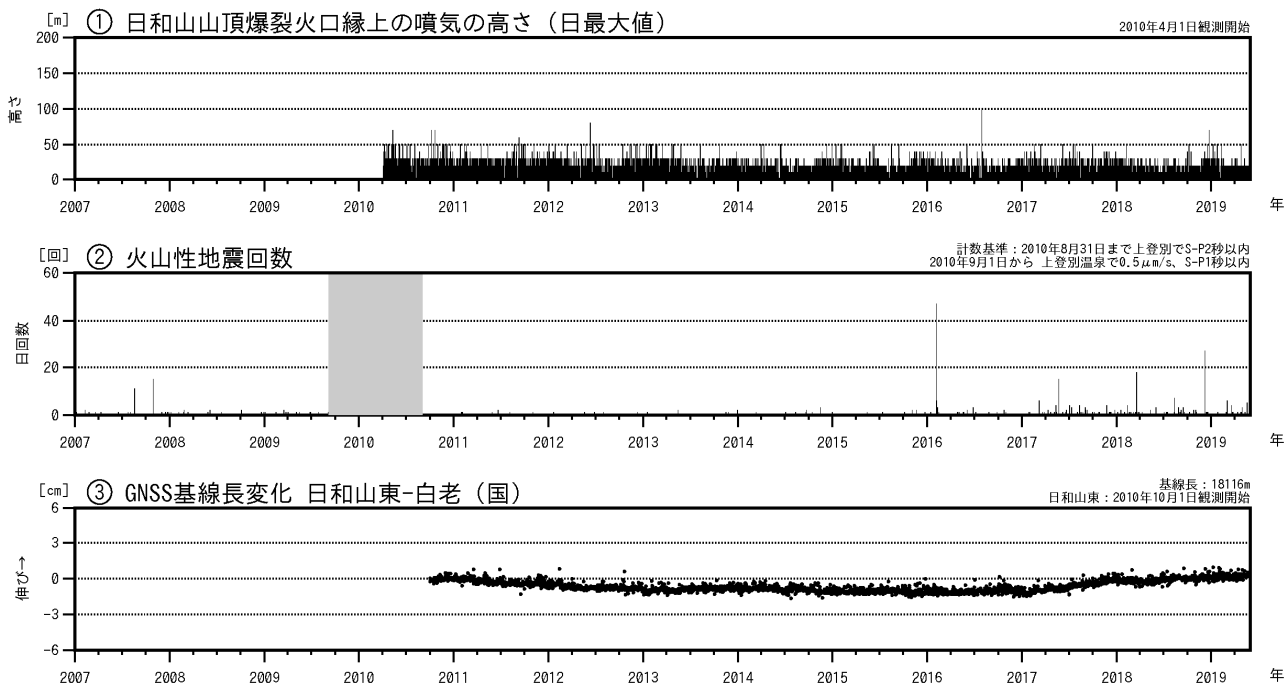
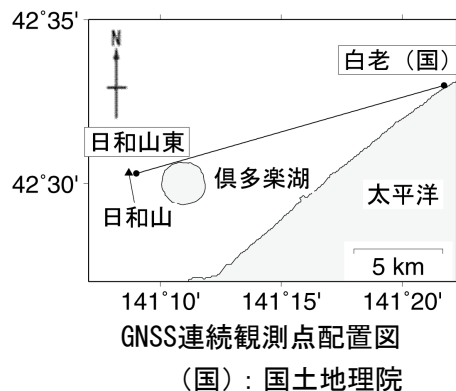


図2 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2019年5月）

- ②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
- ③のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」及び「平成30年北海道胆振東部地震」に伴うステップを補正しています。
- ・③のGNSS基線では、2017年以降、わずかな伸びがみられていましたが、2019年以降停滞しています。



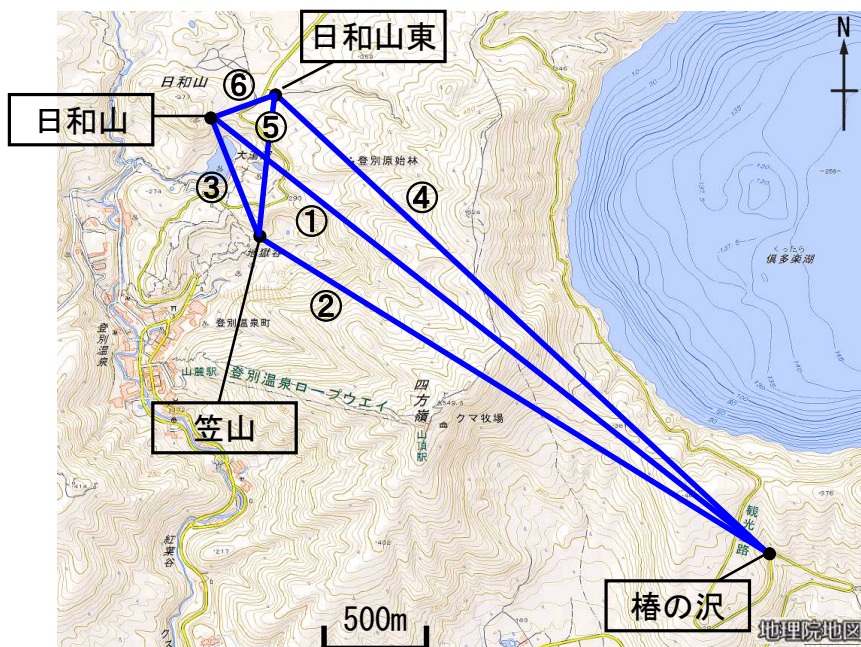
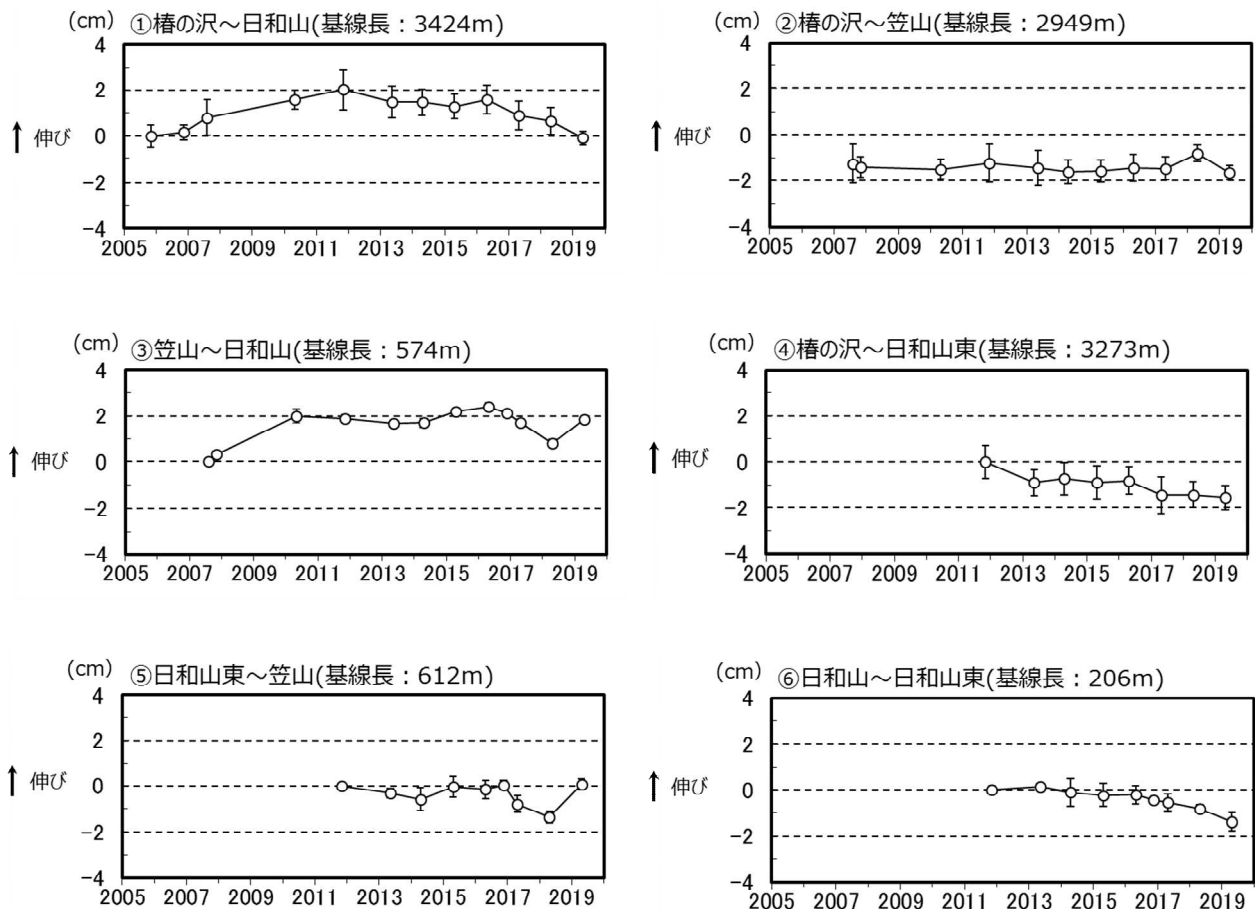


図3 倶多楽 GNSS 繰り返し観測による基線長変化（2005年11月～2019年4月）

- ・ GNSS 基線①～⑥は下図の①～⑥に対応しています。
- ・ ①、④、⑥の基線に縮みが認められます。
- ・ 笠山を基点とする②、③、⑤の基線で変化が見られますが、笠山の局所的な変動と考えられます。

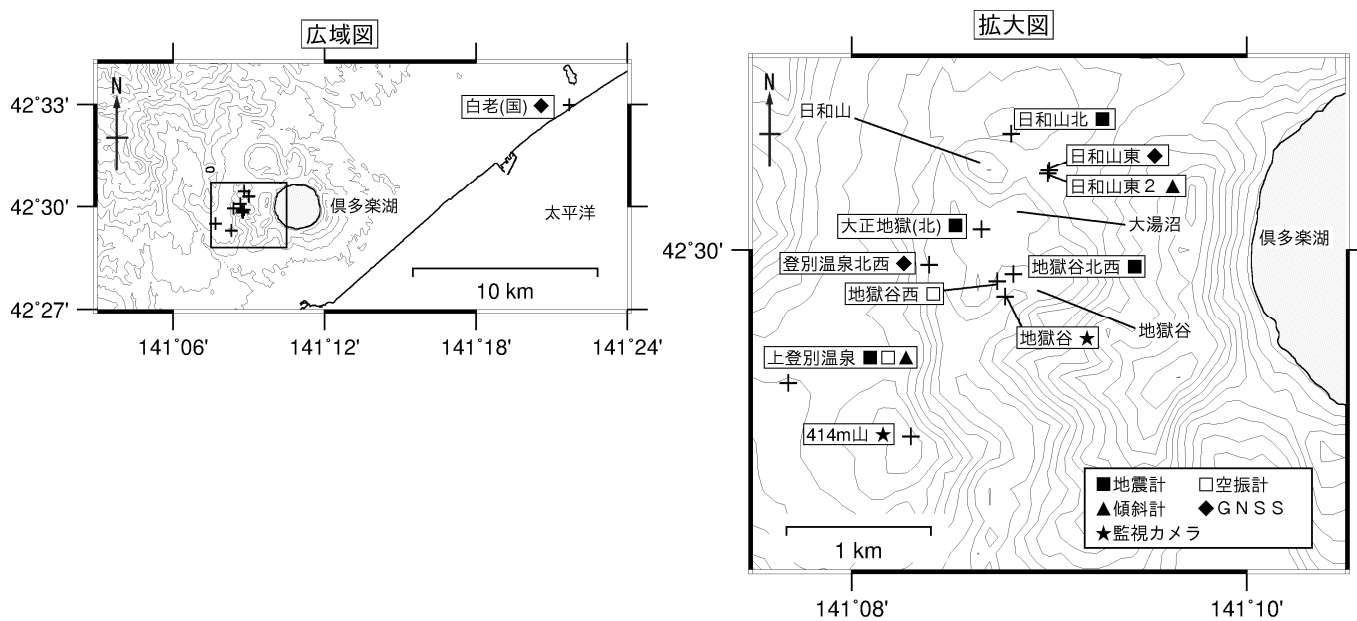


図4 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学